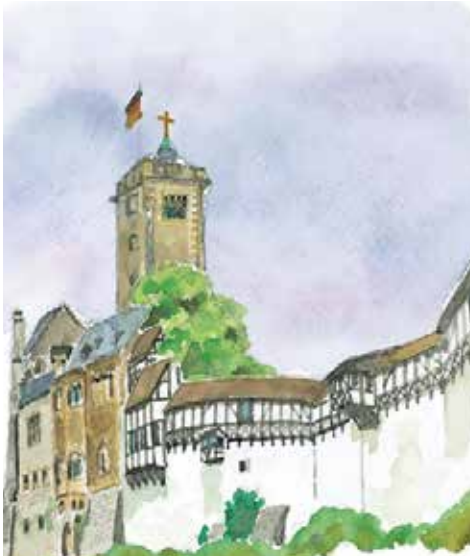

第113回　私のスケッチブック

「テューリンゲンの森に抱かれた名城」

ヴァルトブルク城／ハルツ地方（ドイツ）

テューリンゲンの森に囲まれた古城の話。フランクフルトからライプチヒへと向かうゲーテ街道沿いの小さな田舎町アイゼナハから手軽なハイキングコースとして訪れる事ができるのが、ヴァルトブルク城です。

難攻不落の名城は1067年に建築され、ハンガリーからルートヴィヒ4世のお妃として嫁いで来た聖女エリザベートが過ごし、中世建築様式が色濃く残る宮殿の大広間ではオペラ・タンホイザーの歌合戦が催された事でも知られています。そして、宗教改革で有名なマルティン・ルターが教皇から破門になり、このお城の一室に匿われて1521年にラテン語の聖書をドイツ語に翻訳した事で有名です。

このお城が残した数多くのエピソードは、プロテスタントの成立につながり、ドイツ語の発展に寄与し、ゲーテが愛し、ワグナーが愛し、ノイシュバンシュタイン城の城主・ルートヴィヒ2世も憧れ、ドイツ人の心の故郷と謂われた名城です。

堅牢なお城は外観も内装装飾も丁寧に保存されて、見事な佇まいに感動します。また麓の町アイゼナハにはヨハン・ゼバスティアン・バッハの生家が保存され、マルティン・ルターが幼い頃に過ごした下宿がルターハウスとして残されています。

この町からエアフルト～ワイマールへと続く街角は、中世から近代に掛けての交通の要地として栄え、駅から城門をくぐると素敵な街並みに出遭います。マルクト広場に向かう道筋では何とも食欲をそそられる香りにタマリマセン。何せ多くの屋台でソーセージを焼いているのですから！この町独特の味でニンニクとハーブを練り込んだ逸品で、ケチャップかゼンフと云うマスタードで楽しみます。パンからはみだしそうなソーセージを頬張りながら、多くの観光客に交じって街歩き。5月には名物のホワイトアスパラガスが市場に並びます。

延原 慎吾

1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
「第71回 全国カレンダー展」に12度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
http://www.urban.ne.jp/home/nobu36

水彩画　延原　検索